

国語学習時間の増加

さて、次に私は日本の国語教育の欠陥として学習時間数の少ないことを指摘したいと思ひます。国語教育はすべての教科の学習を進めて行くために、欠くことのできない読解力を養ふといふ最も基礎的な学習であります。社会科にしても理科にしても、教科書を読んで理解するといふ読解力が弱ければ、学習をうまく進めて行くことが出来ません。ところが現在の中学生には理科や数学の教科書を満足に読めない者が半分以上もゐます。これでは教育がうまく進められるわけがありません。

外国の例をみますと、学習時間総数の半分以上の時間が国語の学習に充てられてゐます。例へば東ドイツでは三年生の場合ですが週24時間中14時間が国語です。一年、二年も大体同じ比率です。理科、社会科がありませんが、それはまづ読解力をつけることを考へてゐるからです。世界で一番国語の時間が少ないのが日本でありまして、我国の国語の時間は総授業時間数の四分の一程しかありません。一、二、三年といふ最も基本的な教育をする時期に、四分の一といふのは諸外国に較べてみて、実に半分以上の時間でしかありません。

「それでもこれだけの教育成果があがってゐるのだからいいではないか」といふ意見もありますが、しかし、読解力はどんなに高くても高過ぎて困るといふことはないわけでありまして、国語の時間を増やして読解力を高めれば、理科だって社会科だって、もっと短時間により効果的な学習ができるわけです。例へば、幼児期から十分に漢字教育を受けてきた子供は、私共の二、三倍の速さで本を読んで完全に理解することが出来ます。速くてしかもしっかり内容を掴むことが出来るのです。